座談会

小諸産農産物の「価値」を高める6次産業化

農業振興の方向性と6次産業化の推進

▼問い合わせ先　農林課　6次産業化推進係

岡本　眞一　氏
（6次産業化推進員）
JA佐久浅間常務理事（リスク統括・企画総務担当）をH27.5月退任。同年10月から小諸市6次産業化推進員。

柳田　剛彦
（小諸市長）
農業の可能性を引き出す6次産業化により、小諸の農産物のブランド化をすすめ、地域の魅力づくりと地域経済活性化を推進。

清水　紀久夫　氏
日立製作所小諸工場で生産工程管理を担当。退職後、水稲5haの他、ソバ、菜種、大豆、トマト、パプリカなどを栽培。第17回米・食味分析鑑定コンクールで金賞受賞。

大池　猛　氏
（農業委員会会長）
JA信州うえだ営農部で販売・営農指導など農業全般のサポートに尽力。退職後、自ら桃、水稲の栽培に取り組む。H20.7月から農業委員、H26.7月から農業委員会会長。

昨年12月21日、市役所において、「小諸市の農業振興の方向性と6次産業化の推進」をテーマに、柳田剛彦市長、大池猛農業委員会会長、第17回米・食味分析鑑定コンクールで最高金賞を受賞した清水紀久夫さん（宮沢区）による座談会を開催しました。（進行は、岡本眞一6次産業化推進員に務めていただきました。）

■「価値」を高める一つの形

米・食味分析鑑定コンクール

岡本　11月下旬に石川県小松市で開催されたお米の品評会「第17回米・食味分析鑑定コンクール」の国際総合部門で、5000点を超える出品の中から最高の金賞を受賞されました。おめでとうございます。

清水　ありがとうございます。自分の作っているお米の客観的な評価が知りたくて4年前から出品するようになりました。その後、おいしいお米を作る励みとして、コンクールでの入賞をめざしてきました。

今回、客観的においしいお米と認められ、また、市長、大池会長をはじめ農業委員の皆さんにも祝っていただき、本当にうれしく思っています。

■小諸市の農業を取り巻く状況

岡本　農業を取り巻く環境が大きく変化していますが、小諸市の農業の現状をどう認識されていますか。

市長　全国的に農家の高齢化や後継者不足・耕作放棄地が増加していますが、小諸市も例外ではなく、特に中山間地域では、その傾向が顕著になりつつあります。市では、過去5年で22名の新規就農者への助成を行い、新たな担い手の確保を行ってきました。また、耕作放棄地対策としては、担い手の耕作地の隣地を再生して耕作していただくよう助成制度も設け、過去7年間で約22haの再生が行われました。また、消費の多様化、TPP、訪日旅行客（インバウンド）の増加なども考えていかなければなりません。

大池　小諸市は、水稲、野菜、果樹などが地域ごとに作られてきました。東部地域では、野菜や果樹の産地化に成功しましたが、西部地域